門祖聖人物語 第12回

550

北河内三井村（現・大阪府寝屋川市美井）の一帯に御題目のご信心が弘まった頃、京都の日道聖人（門祖聖人の伯父さん）のご指示で、門祖聖人は兵庫県の尼崎に向かわれることになったんだ。そこで今回は尼崎でのご奉公のお話だよ！。

尼崎のご奉公

応永二十七年（一四二〇）、門祖聖人が三十六歳の時、日道聖人のご指示で、尼崎（兵庫県）の辰巳浜に住む米屋の四郎五郎という方を訪ねることになったんだ。

この四郎五郎さんは、日道聖人の以前からの知り合いで、お教化（御題目のご信者になる）するよう、日道聖人が門祖聖人にお願いしていたんだ。四郎五郎さんの家では当時、病人がいたんだけど、御本尊を奉安してご信者となったら、ご利益をいただき健康になったんだ。するとこの話を聞いた近所の小浜屋五郎も、今までしていた信心を止めて御題目のご信者になったんだ。この様に尼崎でのご奉公が始まったんだ。

変成男子のご利益

門祖聖人が尼崎でご奉公されている頃、尼崎では細川満元という人物が、幕府の役人として諸大名を取りまとめていたんだ。この細川公の夫人は、赤ちゃんを身ごもっていたんだけど、占い師が「男子であれば問題ないが、女子であれば母子ともに出生が危ない」。そして「今回はどうやら女子のようだ」と言うんだ。細川公が「どうしたらいいのか」と困っていると、占い師は「幸い偉いお坊さん（門祖聖人）が、今、尼崎にいるのでその方に頼みなさい」と。早速、細川公は使いの者を向かわせたんだ。けれども門祖聖人は、ご相談にのらなかったんだ。そこで細川公が自ら訪ね門祖聖人にお願いすると、「信心を改め、御題目のご信者になるのであれば」と…。すると細川公は「御題目のご信者になる」と誓われたんだ。そこで門祖聖人がご祈願なされると見事に男の子が誕生。このお計らいを細川公夫妻は大変に喜ばれたんだ。

尼崎・本興寺

本興寺の建立

細川公の「御礼としてお望みの物を差し上げたい」との熱心な申し出に、門祖聖人は尼崎の地にお寺を建てたいと希望されたんだ。「お好きな場所をお選び下さい」との言葉に、お寺となる場所を探しに門祖聖人は出かけられたんだ。

そして偶然、御戸帳（社等の上に掛ける布）が片方しか掛かっていない八幡宮（神社）を見つけ、不思議に思い番人の老人に尋ねると、「もう何十年も前に『神剣』と一緒になくなってしまった」と言うんだ。

門祖聖人が「その神剣はひょっとしてこれか」と、肌身離さず持っておられた守り刀（長一丸）を差し出すと、老人は「あっ、これだ。これはこの八幡宮の神剣だ」と叫ぶんだ。そして「この長一丸を包んでいる錦の布とこの社に掛かる御戸帳とは同じ物だ」と自信ありげに言うんだ。なるほど両方の錦の布を合わすと、長一丸を包んだ布と、社の上にかかっている御戸帳は、同じ錦の布であることが分かったんだ。

門祖聖人は、誕生の時、守り刀（長一丸）を授けてくれた白髪の老人は、この八幡宮の化身であったのだと知り、この地にお寺（本興寺）を建てることにしたんだよ。

八幡宮御戸帳（はちまんぐうみとちょう）
長一丸を包んでいた布と同一の布という

「長一丸」・守り刀